

坂口安吾作品 人気投票 結果発表

(投票期間:9/6-10/9,10/20 投票数:107件(50名))



第1位

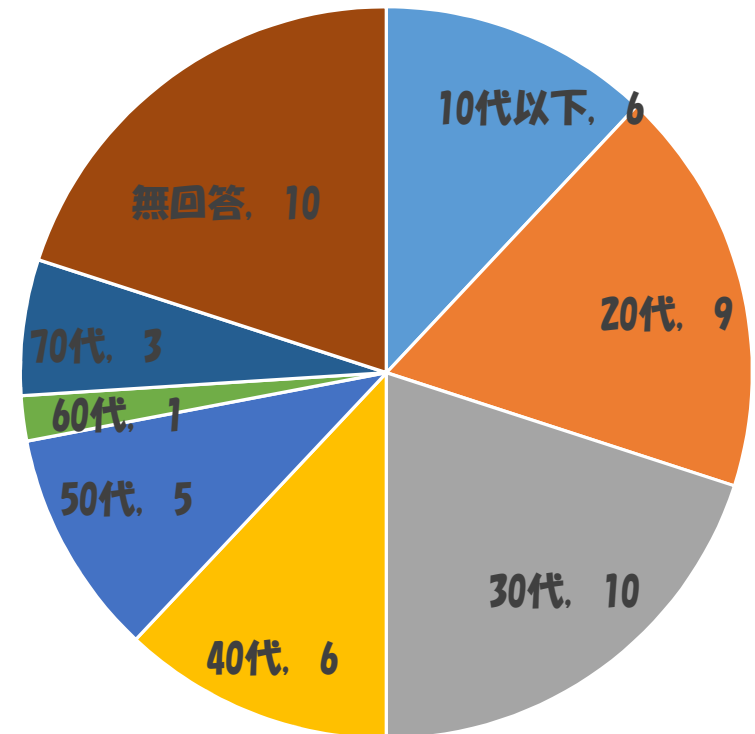
墮落論(10票)

第2位

桜の森の満開の下(7票)

第3位

不連続殺人事件(6票)



投票者年代内訳

- 第4位(5票) 不良少年とキリスト
- 第5位(4票) 夜長姫と耳男、白痴、二流の人
- 第6位(3票) ピエロ伝道者、わが戦争に対処せる工夫の数々、
青鬼の禪を洗う女、
- 第7位(2票) 道鏡、文学のふるさと、日本文化私観、続墮落論、
私は誰？、ふるさとに寄する賛歌、ラムネ氏のこと、
風博士、アンゴウ
- 第8位(1票) 風と光と二十の私と、私は海をだきしめていたい、
ヒンセザレバドンス、わが精神の周囲、竹藪の家、
いずこへ、母の上京、デカダン文学論、吹雪物語、
富山の薬と越後の毒消し(安吾新日本風土記)、恋愛論、
人の子の親となりて、明治開化 安吾捕物帖、暗い青春、
現代忍術伝、紫大納言、牛、水鳥亭、死と影、長島の死、
逃げたい心、明日は天気になれ、青春論、太宰治情死考、
復員、百万人の文学、織田信長、黒田如水、母、信長、
二流の人、安吾新日本地理(高麗神社の笛の音)、九段、
勝負師、散る日本、安吾新日本風土記、村のひと騒ぎ、
FRACEに就て、ジロリの女、安吾新日本地理

好きな(オススメする)理由とお気に入りの一節を聞きました！



第1位

墮落論(10票)



30代、男性

「墮落論」は私が安吾にハマるきっかけとなった作品です。そして人生観...と書くと多少大袈裟かもしれませんが...それでも物事の見方や価値観を大きく変えてくれた作品です。人間に対する絶対的な肯定に満ちた作品であり、読み返すたびに胸を打たれ励まされました。力強く、そして暖かい作品...。この作品があればどんな世界でも自分を見失わず生きていける気がします。私にとって「御守り」のような作品です。

【お気に入りの一節】

「自分自身の処女を刺殺し、自分自身の武士道、自分自身の天皇をあみだすためには、人は正しく墮ちる道を墮ちきることが必要なのだ。」



10代以下、女性

文学を通して既存の権威に噛みつき古い道德規範を批判し自分の中にある本心を赤裸々にぶつけているから。

【お気に入りの一節】

「政治による救いなどは上皮だけの愚にもつかない物である。」



10代以下、女性

坂口先生の話の中で一番最初に読んだ話でした。「成程、これが坂口安吾かこの人を現代に連れてきたらなんと言うのだろう」と思ったのを覚えています。

【お気に入りの一節】

「笑っているのは常に十五六、十六七の娘達であった。」



20代、男性

安吾に出会った作品だから



突き抜けた極論の爽快感



50代、男性

墮ちることを認めている。
墮ちればなんでも挑戦できると思わせる。



70代、男性

戦争の愚かさを述べている。
【お気に入りの一節】
私は偉大な破壊が好きであった



30代、女性

坂口安吾作品の中で一番初めに読んだ作品で、読んでいるとまるで目の前で先生が力説しているような感覚になるからです。

【お気に入りの一節】

生きよ墮ちよ、その正当な手順の外に、真に人間を救い得る便利な近道が有りうるだろうか。

第2位

桜の森の満開の下 (7票)



70代

今まで読んだことのない不気味さとももの悲しさ



20代、女性

坂口安吾のラブストーリーは全部好き
【お気に入りの一節】
全部好きです



10代以下、女性

桜の妖しさを感じられるから。

【お気に入りの一節】

「山へ帰ろう。山へ帰るのだ。なぜこの単純なことを忘れていたのだろうか？」

第3位

不連続殺人事件(6票)



安吾さんも本格ミステリを書いていたんだ！？と驚き、クリスティっぽさを感じてたら安吾さんもよく読まれていたとか。人物像が記号になりがちなミステリで今時な人々を生々しすぎるくらいに描いてるのが流石です。海外作品によくある一人の人が複数の愛称で呼ばれて「それ誰の事指してる!？」って悩まされるのを本作でも見事に踏襲されていて日本作品でまさかの名前メモ作成必須で、読んでいる間とても楽しかった思い出の一冊です。



10代以下、女性

自分が初めて読んだミステリー小説なのだが、話の流れがとても分かりやすく、面白かったため。また、作品の時代背景も感じられて、読んでいて飽きなかったから。

【お気に入りの一節】

私はアタピン女史を怒らせておいて、逃げ出した。



安吾さんも本格ミステリを書いていたんだ！？と驚き、クリスティっぽさを感じてたら安吾さんもよく読まれていたとか。人物像が記号になりがちなミステリで今時な人々を生々しすぎるくらいに描いてるのが流石です。海外作品によくある一人の人が複数の愛称で呼ばれて「それ誰の事指してる!？」って悩まされるのを本作でも見事に踏襲されていて日本作品でまさかの名前メモ作成必須で、読んでいる間とても楽しかった思い出の一冊です。



10代以下、女性

自分が初めて読んだミステリー小説なのだが、話の流れがとても分かりやすく、面白かったため。また、作品の時代背景も感じられて、読んでいて飽きなかったから。

【お気に入りの一節】

私はアタピン女史を怒らせておいて、逃げ出した。



40代

あまり推理小説は読まないが、これは別格。犯人は想像つかない上に、人物描写と心理表情のすばらしさが文学としておもしろい



ちゃんと推理小説になってる

第4位

不良少年とキリスト(5票)



30代、女性

私は昔から希死念慮を抱え生きてきたため、この作品を読んで身近な人に死なれた者の気持ちを知ってしまったら死ねなくなるのではないか、という危機感がありました。頭の片隅でパトランプが回る音を響かせながらそれでもなお読み進めた結果、死にたいと思ったらこの作品を読もう。そして踏み止まって生きてみようという感想を強く持ちました。いざという時はこの作品があるから大丈夫だと思える、私のお守りみたいな存在です。

【お気に入りの一節】

「死なない葬式が、あるもんか。 新聞記者のカンチガイが本当であったら、大いに、よかった。一年間ぐらい太宰を隠しておいて、ヒョイと生きかえらせたら、新聞記者や世の良識ある人々はカンカンと怒るか知れないが、たまにはそんなことが有っても、いいではないか。本当の自殺よりも、狂言自殺をたくらむだけのイタズラができれば、太宰の文学はもっと傑すぐれたものになったろうと私は思っている。」



30代、女性

とても愛の深い人なんだと思いました。

【お気に入りの一節】

いつでも、死ぬる。そんな、つまらんことをやるな。いつでも出来ることなんか、やるもんじゃないよ。



【お気に入りの一節】

学問は、限度の発見だ。私は、そのために戦う。



10代以下、女性

初めから檀一雄がくる件あたり、そこまでがあまりにいつもの感じと違って、大阪の反逆は、坂口先生だ、となったのにこれは最初のあたりと最後のページ位が余りにもボロボロというか、泣けてきてしまって。

【お気に入りの一節】

いいじゃないですか。歯痛ぐらい。やれやれ。歯は、そんなものでしたか。新発見。私は、そのために戦う。

第5位

夜長姫と耳男、白痴、二流の人(各4票)



(70代)

【夜長姫と耳男】

こんな小説、書く人いるんだ…何を訴えたいのか？一度読んだら忘れられない



(20代、男性)

【夜長姫と耳男】

残酷なはずの姫の言動は不思議とチャーミングに映る。耳男と姫の間にありきたりなロマンスが起きないのは、文化祭や牛などの作品にも見られる安吾の常套手段だが、それでも姫への複雑な感情を抱きながらつくったバケモノが姫の心を動かしたことに人と神様の通じ合いを感じる。

【お気に入りの一節】

「火をつけなくてよかったね。燃してしまうと、これを見ることができなかったわ」 ヒメは全てを見終ると満足して呟いたが、「でも、もう、燃してしまうがよい」



(40代)

【白痴】

無頼派の代表作と言ってもいいのでは？



(50代、女性)

【白痴】

題名にインパクトがあり、興味を持ちました。



(50代、男性)

【白痴】

タイトルがいい



(40代・男性)

【二流の人】

黒田如水に焦点を当てた、という意味では他の作家に比しても早い時期の作品だと思われ、その先進先取性に惹かれる。また、文体が軽妙で読みやすい



(70代・男性)

【二流の人】

影の武将の斜に構えた生き方



【二流の人】

歴史的な観察眼も印象的

第6位 ピエロ伝道者、青鬼の禪を洗う女、 わが戦争に対処せる工夫の数々 (3票)



20代、男性

【ピエロ伝道者】

莫迦莫迦しい自分をとことん追求する姿勢や涙や卑屈さ、主張を越えたその行動のみに向かっていく意気込みが清々しい。

【お気に入りの一節】

空にある星を一つ欲しいと思いませんか？ 思わない？ そんなら、君と話をしない



10代以下、女性

【ピエロ伝道者】

【お気に入りの一節】

又、「大人」になって、人に笑われずに人を笑うことが、君をそんなに偉くするだろうか？ なぞときはしない。その質問は君を不愉快にし、又もし君が、考え深い感傷家なら、自分の身の上を思いやって悲しみを深めるに違いないから。



20代

【ピエロ伝道者】

冒頭が魅力的で引き込まれる。アイドル、俳優、配信者みんなこのメンタリティで活動していて欲しい。炎上とか馬鹿らしくなるから。

【お気に入りの一節】

空にある星を一つ欲しいと思いませんか？ 思わない？ そんなら、君と話をしない。



30代 女性

【わが戦争に対処せる工夫の数々】

私はロシアとウクライナの戦争が起こり、日常の片隅に戦争というものがずっとある状態でどんな気持ちで生きればいいのかと悩んでいた時にこの作品を読みました。当時、戦時下に生きる安吾が様々な訓練に明け暮れ懸命に力強く生き残ろうとしている姿に、初めて読んだときは目から鱗がこぼれる思いでした。どんな状況下であろうと今自分に出来る限りのことをして生きていくしかないよなど、なんだか力づけられる思いがしました

【お気に入りの一節】

私はパンツ一つの素ッ裸でエイヤツと大谷石に武者ぶりつき荒川熊蔵よろしく抱きあげるのだが、おかげで胸から肩は傷だらけ、腕はミミズ腫れが入り乱れてのたくり廻つてゐる勇しさで、全くどうも、頭の上にはB29がひどくスマートな銀色をピカ／＼させて飛んでゐるといふのに、地上の日本は戦国時代の原始へもどつて、生き残る訓練だといつて、大谷石に武者ぶりついてゐる。



70代・男性

【わが戦争に対処せる工夫の数々】

戦時中の安吾の心意気がわかる。

【お気に入りの一節】

お風呂へ水を充して、1日に10ぺんぐらい水風呂へつかるといふのだ。

第7位以下



20代、女性

【道鏡】

淡々とした文体でありながら、史実の解説から道鏡の激情の描写まで次第に変化していくのが面白く、この作品を読むと道鏡のことが好きになると感じます(?)教科書的な説明ではさらっと終わってしまう出来事をじっくり噛みしめられるのが歴史小説の良さだなど改めて実感しました。

【お気に入りの一節】

あの人ならば。なぜなら、彼の魂は高く、すぐれていた。そして、識見は深遠で、俗なるものと離れていた。



20代、男性

【道鏡】

好きなタイプのラブストーリー

【お気に入りの一節】

この女帝ほど壮大な不具者はみなかった。なぜなら、彼女は天下第一の人格として、世に最も尊貴な、そして特別な現人神として育てられ、女としての心情が当然もとむべき男に就ては教へられてみなかったからだ。結婚に就ては教へられもせず、予想もされてみなかった。父母の天皇皇后はそのやうに彼女を育て、そして甚だ軽率に彼女の高貴な娘気質を盲信した。我々の娘だ。特別な娘だ。男などの必要の筈はない、と。



30代、女性

【アンゴウ】

真相が予想外で驚いたし、次問で書かせていただいた一節を読んだ瞬間、温かいような切ないような複数の感情を抱いたのをよく覚えているからです。

【お気に入りの一節】

私たちは、いま、天国に遊んでいます。



50代、男性

【日本文化私観】

戦前の作品なのに凄い。新潟が紹介されている。



30代、男性

【文学のふるさと】

白痴、黒谷村、桜の森の満開の下... 安吾の小説にはなんだかこう、突き放されるような、心に大きな穴を開けられるような、自分の中の何かが消えていくような、そしてそれらの全てが愛おしく思えてくる...そんな魅力があります。この作品を読むとその魅力の正体に触れることが出来る気がします。安吾作品を読む前に一度目を通しておきたい作品であり、混沌の時代を生きる「ヒント」みたいなものも私には感じられました。

【お気に入りの一節】

モラルがないということ自体がモラルであると同じように、救いがないということ自体が救いでありませう。



60代、女性

【日本文化私観】
タウトとの比較。安吾ならではの評論



20代、女性

【私は誰？】
【お気に入りの一節】
芸術は、生きることのシノニムだ。



10代以下、女性

【私は誰？】
無頼派の座談会があった数ヶ月後に書いたエッセイで、安吾が思う文学などが書かれているから
【お気に入りの一節】
私はいつも「これから」の中に生きている。



10代以下、女性

【続墮落論】
戦時中に日本人を縛り付けていた規範に対し具体的にそしてより過激に批判されているから
【お気に入りの一節】
我等国民は戦争をやめたくて仕方がなかったのではないか。



30代、女性

【続墮落論】
墮落論だけでは難解だったニュアンスを丁寧に解きほぐされ、安吾が何を訴えたかったかがよくわかる。
墮落論と必ず併せて読むべき。
【お気に入りの一節】
たえがたきを忍び、忍びがたきを忍んで、朕ちんの命令に服してくれという。すると国民は泣いて、外ならぬ陛下の命令だから、忍びがたいけれども忍んで負けよう、と言う。嘘をつけ！ 嘘をつけ！ 嘘をつけ！



60代、女性

【ふるさとに寄する賛歌】
冒頭が詩のように美しい



30代、女性

【明治開化 安吾捕物帖】
軽快な文章で展開される物語の手ざわりが大好きです。



30代、男性

【ふるさとに寄する賛歌】

耽溺したといえ、この美しいうたの世界。読んでいてつらさもあるのだけれど、これが人生というほかはないのでしょうか。そこにじっとしてられないような、でもウロウロするばかりで、といった読後感が何度読んでもたまりません。心洗われるのか、短いからか、よく読み返すので、選びました。

【お気に入りの一節】

私達はホテルの楼上に訣別の食卓をかこんだ。街の灯が次第にふえた。私は劇しくイライラしていた。姉は私の氣勢に吞まれて沈黙した。私達は停車場へ行った。私達は退屈していた。汽車がうごいた。私は興奮した。夢中に帽子を振った。別れのみ、にがかった。



20代

【ラムネ氏のこと】

大学受験の現代文過去問題集で、この作品だけは面白くて、タイトルと著者を調べて全文読んだ。うっとおしくないし、言いたいこともそれをいう必要があることも伝わるので読んでいて苦にならない。だらだら長いな、その話要る？で？結局何言いたいんだよと現代文のテストで思ったことのある人にはぴったり。

【お気に入りの一節】

フグに徹しラムネに徹する者のみが、とにかく、物のありかたを変えてきた。それだけでよからう。それならば、男子一生の業とするに足りるのである。



40代、男性

【ラムネ氏のこと】

キノコ採りを趣味とする者にとって、キノコの同定は何年やっても難しいものである。

【お気に入りの一節】

この宿屋では、決して素性ある茸を食わせてくれぬ。



30代、女性

【風博士】

「諸君」で始まる勢いのよい文章にグイグイ引き込まれます！

【お気に入りの一節】

諸氏は尚、この明白なる事実を疑るのであろうか。それは大変残念である。



【安吾新日本地理】

もうひとつの日本の歴史を書いた



30代、女性

【風博士】
文の軽快さ

【お気に入りの一節】

そして諸君は偉大なる風博士を御存知であろうか？ない。嗚呼。



【二流の人】
時代もの・最高



20代、女性

【風と光と二十の私と】

生々しくも清涼なイメージが大好きな一作です。作中の言葉には何度も救われました。自分が二十歳を超えたときには何とも言えない気持ちになりました。

【お気に入りの一節】

子供の胸にひめられている苦悩懊悩は、大人と同様に、むしろそれよりもひたむきに、深刻なのである。その原因が幼稚であるといって、苦悩自体の深さを原因の幼稚さで片づけてはいけない。そういう自責や苦悩の深さは七ツの子供も四十の男も変りのあるものではない。



30代、女性

【竹藪の家】

地の文と罵倒の疾走感が好き

【お気に入りの一節】

全部好きです



30代

【デカダン文学論】
人生観が好きです



30代、女性

【わが精神の周囲】

過去の経験から神経衰弱になったのは睡眠不足に原因があることに気付きながらも、催眠剤を多用してまでも仕事を完遂しようとする安吾のストイックさ。そしてその代償に様々な症状に苛まれながらも、周囲の人々に助けられながら自分の力で病を克服し生きようとしている安吾の姿がよく描かれていてとても好きです。鬱病という自分自身の抱える心の病と闘っている姿に勇気をもらえる作品だと思います。

【お気に入りの一節】

私は今に至って、さどったが、精神の衰弱は自らの精神によって治す以外に奥の手はないものである。専門医にまかせたところで、所詮は再発する以外に仕方がない。内臓の疾患などは、その知識のない患者にとって如何とも施す術がないけれども、精神の最上の医者は、自分以外にはいない。私が今、切に求められているのは肉体上の健康で、精神はハッキリ、ただ私だけのものであることを悟るに至った。



20代、女性

【私は海をだきしめていたい】

初めて読んだとき、短いながら幻覚を見る場面に感情移入したため印象に残っています。海と肉体のイメージが重なるのが面白く、詩のようで小説のようで随筆のようで、不思議な感覚になります。「海にだきしめられる」ではなく「海をだきしめる」とはどういうことだろう？とイメージを膨らみます。

【お気に入りの一節】

私の肉慾も、あの海の暗いうねりにまかれない。あの波にうたれて、くぐりたいと思った。私は海をだきしめて、私の肉慾がみたされてくれればよいと思った。私は肉慾の小ささが悲しかった。



30代、男性

【ヒンセザレバドンス】

安吾の貧乏時代を綴った作品です。孤独のあまり、借金取りを恋人の訪れのように感じたり、酒を飲む金の為に出版社を脅かしたり、苦心して得た金を一晩で使い果たしたり...まさに破天荒！「貧乏については覚悟を決めている」「浪費はやめぬ。死ぬまでやめぬ」といった頼もしさ(?)と愛おしさを感じられる言葉の数々が詰まったこの作品で私の「安吾愛」みたいものは一層深まりました。

【お気に入りの一節】

一杯のうどんを食ふべきか、一箱のタバコを買ふべきかといふ瀬戸際になつてどんなに喉が鳴るやうでもタバコの方を買ふもので、私がどんな時でも自分を信じてゐることができたのは、かういふ瀬戸際に自分をあざむくことがなかつたせみだと思ふ



30代、男性

【いづこへ】

はじめて読んだ安吾の作品がこの「いづこへ」。凶らずも、私は安吾と同じように、授業にも出ずいろんなところで寝っ転がっていたため、人様より多くの時間をかけて高校を卒えた身。私にとって、安吾といえばこれなのです。

【お気に入りの一節】

私は新潟中学というところを三年生の夏に追いだされたのだが、そのとき、学校の机の蓋の裏側に、余は偉大なる落伍者となつていつの日か歴史の中によみがえるであろうと、キザなことを彫ってきた。



【吹雪物語】

正直、物語としての面白味があるか？と問われたらyesとは答えられない作品ではありますが。登場人物がとにかく延々と考える。考えすぎて上手く動けない。更には他人の思惑に振り回されることもある。自分も結構考え込むタチなのである意味共感しちゃうし、また安吾さんを感じるというか、彼の、物語に落とし込めなかった葛藤を感じられたりして好きな作品です。

【お気に入りの一節】

澄江を知り、恋心を知ってから、もはや四年過ぎている。四年間。その年月の流れるうちに、たった一人の澄江をめぐる、どれほど多くの物思いがあったであろう。澄江ひとりの姿をめぐる、思いうるあらゆることは思いつくしてきたのである。



30代、男性

【母の上京】

私がお気に入りの一節のあと、なかなか読み進められないほどにボーンとさせられました。昨年、私の母が私のもとへ上京し帰ったあと、この作品を読み直してみれば、なぜだか好きな作品へとなっていました。今ならこれ、と選びました。

【お気に入りの一節】

世の常の道にそむいた生活をしていると、いつまでたっても心の母が死なないもので、それはもう実の母とは姿が違っているのであるが、苦しみにつけ、悲しみにつけ、なべて思いが自分に帰るその底に母の姿がいるのである。切なさ、という母がいる。苦しみ、というふるさとがある。



10代以下、女性

【恋愛論】

【お気に入りの一節】

人生においては、詩を愛すよりも、現実を愛すことから始めなければならぬ。



20代、女性

【暗い青春】

【お気に入りの一節】

青春ほど、死の翳を負ひ、死と背中合せな時期はない。



40代、女性

【紫大納言】

大納言の激しい言葉、想いがあまりに壮絶で、最初に読んだ時しばらく身悶えて悶えてしまったほどでした。炎のように激しく身勝手な恋を、現実の無情さとファルスの要素でまとめあげる安吾の傑作のひとつだと思います。とてもとても大好き。

【お気に入りの一節】

もはや、お目覚めのことでしょうか。このうすぎたない地上でも、あなたの目覚めに、なお、いくらかは優しい慰めを与えたものがあつたでしょうか。



40代、男性

【逃げたい心】

意味不明な人物の奇譚。何故という疑問を持つことを認めない力業的な小説。安吾はきっと何かから逃げたかったのだろう。



30代、女性

【百万人の文学】

太宰を幾度も褒める安吾が、おそらく最大級の賛辞を贈っているように感じられる文章。それまで気配を感じさせずに、最後の一文にぽっと出してくるあたりがニクい。

【お気に入りの一節】

現代の作家では、弱々しいセン光の身もだえに似たものであるが太宰がアドルフと同じように百何年後に千万人の魂と結合する程度に愛読されるだろう。



20代

【現代忍術伝】

コンビニにいるやたらと横柄で手際の悪いレジのおじさん。きっと定年後のアルバイト。家庭にも居場所がないお父さん。正宗菊松があまりにリアルで親近感がわく。



60代、女性

【信長】

信長の人物形成時の様子が生き生きと描かれていておもしろい



40代、女性

【牛】

安吾らしいユーモアと残酷な部分がありつつも、どこまでも爽やかで軽い文体で読める、晩年の安吾だからこそ書けたであろう作風がとても好きです。最初読んだ時「安吾ってこんな話も書くんだった！」と新鮮な驚きでいっぱいでした。

【お気に入りの一節】

「病気ですか」「そうだ。恋わずらいだ」



40代、男性

【死と影】

矢田津世子を忘れるために死力を尽くし、死力を尽くすために逆に拘り続けなければならないパラドックスに陥ってしまう滑稽さ。悪夢のような小説「吹雪物語」を読み解く入門書。

【お気に入りの一節】

孤影。私は、私自身に、そういう名前をつけていたのだ。



20代、女性

【青春論】

読むとホッとします。

【お気に入りの一節】

死ぬることは簡単だが、生きることは難事業である。僕のような空虚な生活を送り、一時間一時間に実のない生活を送っていても、この感慨は痛烈に身にさしせまって感じられる。こんなに空虚な実のない生活をしていながら、それでいて生きているのが精一杯で、祈りもしたい、酔いもしたい、忘れもしたい、叫びもしたい、走りもしたい。僕には余裕がないのである。生きることが、ただ、全部なのだ。



50代、男性

【富山の薬と越後の毒消し(安吾新日本風土記)】

めずらしく？新潟を褒めている？ 新潟芸妓の発祥の地として岩室芸妓が紹介されている。



10代以下、女性

【太宰治情死考】

不良とキリストより、大阪の反逆に似ている。と言うか不良少年が異質なのだろうけれど。後坂口先生が時々注釈を入れる時に(〇〇ネ)と書くところが個人的に好きです

【お気に入りの一節】

太宰が女と一しょに死んだなら、女に惚れていなかったと思えば、マチガイない。

あなたにとっての坂口安吾とは

青春の一ページ

びっくり箱

睡眠薬

台風とか嵐みたいに思います。
安吾先生の作品を読むと私の中の何かが破壊
されて今までになかった何かを吹き込んでく
れるように感じるからです

私の人生に**深みと温かさ**を
与えてくれた恩人

あこがれてはいけない人

心に吹く風

特別興味があったわけではなかったのですが、
今日風の館を訪れてみて**もっと多くの作品を讀ん
でみたい**と思いました

デカルト

会えばいつでも楽しい話を
してくれるおじさん

破天荒な恩人

先生

写真いまいち
だけど元気が出る

困ったとき安吾ならどうするか考えて
しまいます。安吾を好きな人
も個性豊か**で**好きです

無頼を気取った
おぼっちゃま

偉大なる落伍者